

“江南の生きている孫悟空”六齡童の至芸を再現

古亂萬魯
樹彈家迅
新韻歡故
巷味喜郷
爛濃駕社
燻于舟戯
開酒來臺

揮毫＝顧錫東（劇作家・浙江省文聯主席）

圧巻！変身の術比べ



紹劇と浙江紹劇院について 小気味よい銅鑼や太鼓の響き、キイの高い情熱的な歌声——紹劇は「紹劇乱弾」とも呼ばれ、そのリズム、音楽形式は乱弾＝梆子腔の系統。陝西、甘肅省一帯の「西秦腔」の影響を受けて明末・清初に形成され、すでに300年以上の歴史を持ち、祭りの時、廟や広場で演じられた「社戯」の伝統が色濃く残されています。

浙江紹劇院は1956年、紹興で設立された浙江省劇団に属し、その前身は同春紹劇団。1920年（民国9年）に生まれて、上海と浙江一帯で公演し、多くのファンを得たことが伝えられています。六齡童、七齡童、十三齡童らが団長に任じ、葆百齡、葆昌順、章艶秋、葆艶秋、葆艶秋らが副団長となった。孫悟空役は六齡童、猪八戒役は七齡童、三蔵法師は章彩霞、十三齡童も葆昌順らに演じられています。伝統の継承を重んじながら改革を避ける、積極的な後継者の育成を方針として、代表的な演目は「三打白骨精」をはじめ、「火焰山」「血淚滴」「戸花記」「香羅帶」「龍虎闘」「于謙」「女吊」など。

日中国文正常化20周年を迎える記念の年、幾多の歴史のロマンを秘めた江南の古都・紹興から「浙江省紹劇院」が初来日を果たすことになりました。クリークと笠舟の「水の都」、紹興酒2千年の「酒の都」として知られる紹興はまた、文豪・魯迅を生み、周恩来元総理ゆかりの土地として、多くの日本人に親しまれています。

「江南の生きている孫悟空」と呼ばれ、名声をほしいままにした六齡童を院長とする浙江紹劇院は、ハードな立ち回り芸と繊細な演技術を二つながら身上としています。その十八番は何とんでも孫悟空ですが、これまで中国からやってきた多くの「孫悟空もの」との違いを圧倒的に見せつける舞名となることでしょう。

今回の日本公演の演目には選ばれた「三打白骨精（白骨の精を三回やっつける）」の魅力は、その脚本の見事さにも

あります。京劇、昆劇のエッセンスも取り入れて24回改編するなどして練り上げられたという作品は、そのまま映画にもなって、1963年の「百花賞」最優秀戯曲映画賞を獲得したほどの完成度の高さを誇っています。悟空、八戒、悟浄、玄奘、それぞれの心の動きは、まるで自分の心をのぞきこむように、思わずうならせられる場面がしばしばです。白骨の精と悟空の「変身の術」比べが、大輪の花のように劇の進行を飾り、クライマックスで大立ち回りとなる戯曲構成は、わくわく、はらはら、どきどきの連続です。それにしては敵役である白骨の精を演じる女優の何と妖しく、何とあてやかて、何と魅力的なことでしょう！まさに孫悟空の面白さを集大成した極めつけの舞名となることを約束いたします。

この公演が中国古典劇の豊かな世界、京劇とは一味違う紹劇の楽しさの再発見につながり、日中両国民の友好と相互理解の促進に役立つことを願ってやみません。



立回り芸の極めつけ、孫悟空の面白さを集大成

◆あらすじ

ありがたいお経を求めて天竺の国へ、今日も西域の旅を続ける玄奘法師と孫悟空、猪八戒、沙悟浄、そして白馬の一行。いつしか千丈の谷を越え、妖霧たちこめる魔界へと迷い込んでいました。

ここはお碗山。山ざらしの白骨の精が千年の修行を経て妖術を身につけ、虎や獅子や狼や豹の妖怪を手下にして、旅人に悪さを働いていました。

「今日の獲物はでっかいぞ」と魔物たちはもう舌なめずりを始めています。お坊さんの肉を食べると、不老不死の霊力が身につくからです。でも、一行の中に孫悟空がいると分かって、びっくり。力では悟空に勝てません。魔物たちは策略をめぐらします。

悟空は道を探しに行こうとしますが、後に残すみんなのことが心配です。地面に円を描いて中に入れ、誰が来ても、いうことを聞いてはいけぬ、食べ物を見ても貰ったりしてはならないと、

念をおして出かけます。

白骨の精が得意とするのは「変身の術」。可愛い村娘に化けて、髪に野の花をさし、籠に食べ物を持ってやってきました。輪の中に入ろうとすると、金色の光にびりりと打たれ、身動きができなくなります。

玄奘の問いに「私はお寺へお布施を届けに参ります」と答えます。玄奘はつい、寺までの道案内を頼んでしまおうでした。と、そこへ悟空が…。手の如意棒で村娘に化けた妖怪に打ってかかります。びっくりした玄奘、「乱暴はならぬ」と悟空を止めにかかります。

白骨の精は今度はお婆さんに化けて、数珠を持って出てきました。打ち殺された娘を見て、泣きわめきます。村に来て娘の葬式をあげて下さいと、すがる老婆の頼みをどうして断れるでしょうか。玄奘が円から出ようとしたとき、悟空が戻り、一打ちで老婆

を倒します。

「殺生の罪は犯してはならぬ。娘と老婆、二人の命を奪うとは」と、玄奘は激しく悟空を叱ります。「妖怪だ」と叫ぶ悟空の声を、誰も聞こうとはしません。玄奘は「私の弟子にあるまじき所行」と、呪文を唱え、悟空の頭の輪をぎりぎり絞めるのです。これにはさすがの悟空もかきません。

玄奘は村でお経を上げようとして、みんなを連れて出かけます。悟空は悩みます。そのままにしていたら、みんな妖怪どもに食べられてしまいます。自分が出かけて妖怪を退治しようとする、お師匠さんに叱られます。でも、じっとしているわけにはいきません。悟空は一足先に村へ行き、妖怪をやっつけようとする。

白骨の精は今度はお婆さんのおじいさんに化けて、玄奘の隣りを見て悟空と師弟の縁を切らせようとする。悟空はこのおじいさ

んに如意棒で打ちかかります。白骨の精は、「仏心慈悲」などと書いたお札を、あたかも仏が天から授けたかのようにひらひらと落とします。法師はこれを真に受け、悟空に破門状を書いてしまいました。悟空は悲痛な心を抱いて、ふるさとの花果山へ帰るしかありません。

村のお寺は妖怪たちの洞窟でした。白骨の精が大仏に化けて蓮華の台に座り、妖怪たちが四方から現れて、お経を上げている玄奘たちに襲いかかります。八戒と悟浄は懸命に戦いますが、玄奘と悟浄はつかまり、八戒はかろうじて逃げ出します。早く来い、孫悟空。八戒は花果山へと孫悟空の救いを求めて急ぎます。間に合うか、悟空！悟空の無念は晴らせるか？玄奘法師の運命はいかに？



◆キャスト

孫悟空…劉建楊
 玄奘三蔵…趙秀治
 猪八戒…顧全榮
 沙悟淨…似元法
 白骨精…孫曉燕
 村娘…荊小紅
 老婆…施潔淨
 老爺…鐘国良
 爬山虎…陳炳燦
 妖怪虎…章金雲
 妖怪豹…錢国忠
 妖怪獅…王大為
 妖怪狼…郭勁松
 金銀驢仙人…施潔淨
 伝令の猿…趙樹春

◆スタッフ
 脚本原作…七 齡 童
 芸術指導…六 齡 童

編劇…浙江省文化局

脚 色…貝 庚
 顧 錫 東
 演 出…邢 勝 奎
 屠 世 冲
 作 曲…周 大 風
 羅 萍
 舞台監督…大野泰一
 (エンドレスファクトリー)
 舞台美術…湯 永 生
 照 明…孟 良 生
 王 魯 杭
 中本勝之
 (未来工房)
 音 響…齊藤英士
 (エスイージー)
 演奏(司鼓)…張 海 港
 (主胡)…蔣 志 耿
 翻 訳…細井尚子

前売り開始6月15日(月)

◆入場料(全席指定)

S席/7,000円 A席/5,500円 B席/4,000円
 (消費税込)

◆チケット発売

話劇人社 21世紀企画㈱ ☎ 03-3293-5957
 チケットセゾン ☎ 03-5990-9999
 チケットぴあ ☎ 03-5237-9999
 CNプレイガイド ☎ 03-3257-9999
 都民劇場 ☎ 03-3572-4311
 数寄屋橋チケットガイド ☎ 03-3571-4060
 新宿文化センター ☎ 03-3350-1141
 他都内主要プレイガイド

◆同時解説イヤホンガイドあり(有料)

新宿文化センター

☎ 03-3350-1141

1992年

9月17日(木)

開演：午後3時
 午後7時

9月18日(金)

開演：午後2時
 午後7時

9月19日(土)

開演：午後1時
 (開場30分前)

■問合せ先 話劇人社 21世紀企画 株式会社

〒101 東京都千代田区猿樂町1-2-6 スミビル

TEL 03-3293-5957 FAX 03-3295-4808